

開講年度・学期	2018 年度・通年	授業形態	演習
科目名	専門演習（国際政治）	科目ナンバー	JASEM3303
英語表記	Seminar on International Politics	担当教員	永井 史男
単位数	4		
科目の主題			
グローバリゼーションとアフリカ			
授業の到達目標			
<p>前期はアフリカに焦点を合わせ、特にグローバリゼーションがアフリカの政治にどのような影響を与えたのかという観点から検討する。人類が抱える最大の問題は、東アジアでも中東でもなく、実はサハラ砂漠以南のアフリカ大陸にある。これらの地域では、近代国家の形成がうまくいかず、冷戦終結後も内戦を抱える国々が少なくない。低開発に喘いでいる国々が多いのも特徴である。なぜこのようにアフリカ大陸では問題解決が難しいのかについて、前期は考えてみたい。後期は、各自の関心に従った研究テーマの発表報告を課す一方、ゼミ論執筆に必要な社会科学方法論や各自のテーマに応じた理論書や論文を取り上げる。</p>			
授業内容・授業計画			
<p>演習では報告者が本や論文の要旨をまとめコメントを記したレジュメを用意し、全員で討議する。本演習では、後期の研究報告をもとに、「ゼミ論」を提出してもらう。この「ゼミ論」提出がゼミ単位取得の必須条件である。ゼミ論執筆はゼミの中心的活動で、夏休み中のゼミ論テーマに関する課題図書を読破を始め、2回のゼミ論報告も予定に組み込まれている。受講者数にもよるが、前期にも何度か5時間目に補講が入ることがあるので、そのつもりでいてほしい。本ゼミはまた、一橋大学社会学部の中北浩爾ゼミ（日本政治史）と立命館大学法学部の徳久恭子ゼミ（政治学）とゼミ交流（三商大ゼミ）を続けている（稗田ゼミとの共同参加）。平成28年度は「外国人参政権の是非」がテーマで、それへの参加も評価対象の一部である（平成29年度も実施する予定だが、まだ終了していないので具体的なテーマについては割愛する）。9月には国内合宿を行う予定である（昨年度は奄美大島で合宿を行い、理論書を1冊取り上げた）。後期は各自が選ぶゼミ論に関するテーマや三商ゼミで取り上げるテーマに応じて、本や論文を選択し、前期同様に全員で検討する。</p>			
事前・事後学習の内容			
<p>各回とも受講生に報告の担当が回るほか、共通のテキストを読み進めるので、事前学習は必須である。ゼミ受講後に新たな文献を読む必要に迫られるのが通常なので、事後学習も必然的に行うことになる。</p>			
評価方法			
<p>出席点、ゼミ論の出来栄え、三商ゼミへの貢献、平常点（授業態度、発言など）で総合的に評価する。</p>			
受講生へのコメント			
<p>活動が多岐にわたり、たくさんの本や論文の読破が前提となるので、相応の覚悟をもってゼミに臨んでほしい。目標は、「指名されなくても意見が言い合える」ゼミ、「よく学び、よく遊ぶ」ゼミである。</p>			

教材

前期は下記に挙げる本を順番に取り上げる。3冊目の本はやや古いので、場合によっては図書館で借りるか古本を購入するなどしてほしい。ゼミ初回は1冊目の本を持参すること。

勝俣誠『新・現代アフリカ入門——人々が変わる大陸』岩波新書、2013年。

平野克己『経済大陸アフリカ——資源、食糧問題から開発政策まで』中公新書、2013年。

ポール・コリアー『民主主義がアフリカ経済を殺す』日経BP社、2010年。

川端正久、武内進一、落合雄彦編『紛争解決 アフリカの経験と展望』ミネルヴァ書房、2010年。

その他

OB/OGを含めたコンパや交流もしばしば開いている。OB/OGには民間企業に務めている社会人はじめ、自治体職員、国家公務員（外務省、国際協力機構を含む）、弁護士、研究者、大学院生（国際関係論）など、多彩な人たちが集まる。2016年度は三商ゼミが一橋大学で開催されたのに合わせて、都内六本木の国際文化会館でOB/OG会を開催した。

履修可能最低年次

3年次生以上